

Kanako Abe (Conductor) 阿部 加奈子（指揮）

オランダ在住。東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、パリ国立高等音楽院にて作曲に関連する6つの課程とともに日本人として初めて同音楽院指揮科で学び、フォンティス総合芸術大学大学院指揮科(オランダ)にて修士号を取得。

これまでに作曲を永富正之、管弦楽法をマルク＝アンドレ・ダルバヴィ、楽曲分析をミカエル・レヴィナス、ピアノと伴奏法をジャン・ケルネル、指揮をジョルト・ナジ、ヤーノシュ・フュルスト、ファビオ・ルイーゼ、エティエンヌ・シーベンスなどに師事。

パリ国立高等音楽院在学中より、ヨーロッパを活動の拠点に、指揮者、ピアニスト、作曲家として多方面で活躍する。2005年にはパリ管弦楽団やアンサンブル・アンテルコンタンポラン等のメンバーからなる現代音楽アンサンブル「ミュルチラテラル」を創設、2014年まで音楽監督を務める。また、その間にチューリッヒ歌劇場やモンパリエ国立歌劇場でファビオ・ルイーゼ、エンリケ・マツォーラ、ロレンス・フォスター等のアシスタントを務め、イル・ド・フランス国立管弦楽団、モンパリエ国立管弦楽団、ロレーヌ国立管弦楽団、ルーマニア放送交響楽団などに客演している。2014年より日本でも指揮活動を開始し、これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック、大阪交響楽団、広島交響楽団、群馬交響楽団などと共演、2019年6月には東京オペラシティ文化財団主催「武満徹作曲賞」本選演奏会の指揮者に抜擢された。2015年より Tokyo Ensemnable Factory、2019年よりアンサンブル室町のミュージック・パートナーを務める。

2021年4月にはジュネーヴ室内管弦楽団と、同年5月には第1回デュティユー音楽祭の開幕演奏会でギャルド・レピュブリケーヌ管弦楽団との初共演が決まっている。また2021年4月には、ブシュラ・エル＝トゥルクの新作オペラ「Woman at Point Zero」の指揮をベルギーでの世界初演を皮切りに、ヨーロッパ各地の歌劇場で上演を予定している。

これまでに120曲以上の世界初演の指揮を手がける一方、自身も作曲家としてのキャリアを歩み続けており、2023年には遠藤周作の小説「沈黙」を原作とするオペラ「パドレ」が作曲者自身の指揮によりフランスの複数の歌劇場で上演される予定である。

音楽メディアでは、これまでに「レジス・カンポ Pop-Art」(æon)をはじめ、ヴォデニチャロフの室内オペラ「雪女」(Gega New)など8枚のCDをリリースしている。また、ラジオ・フランスへのレコーディングも定期的に行っており、2012年に指揮者として参加したセバスチャン・リヴァスのラジオオペラ「幻覚の夜」はイタリア放送協会主催の国際番組コンクールで最高賞であるイタリア賞を受賞した。

社会貢献活動では、2011年3月の東日本大震災発生直後、「パリ・東日本大震災チャリティーコンサート実行委員会」を自ら結成、趣旨に賛同したフランス在住の有志音楽家からなる「ジャポネードオーケストラ」を指揮し、同年4月10日にユネスコ・パリ本部国際第一会議場にて、チャリティー演奏会を実施し、この様子はメディア等でも大きく取り上げられた。



Photo Credit (c) Piet Gispen

阿部加奈子公式ホームページ：www.kanakoabe.com
(2020年9月30日現在)

会社ホームページ：<https://www.east-friends.com/>

問い合わせ先：info@east-friends.com